

早稲田大学文学学術院

東洋哲学コース

大学院進学説明会資料

(2023年度)

◆紹介

1882年、大隈重信は東京専門学校を創設し、1890年に文学科が設置された。1902年には大学昇格とともに、早稲田大学と改称した。1920年には、新大学令に基づき、文学部哲学科東洋哲学専攻が発足した。1932年には学制改革により、支那哲学専攻（津田左右吉ら）と印度哲学専攻（武田豊四郎ら）に分割された。1940年、日本・中国思想の研究で名高い津田は、著書の発禁処分を受けたことなどから教授を辞任する。1941年には再び東洋哲学専攻が復活し、福井康順が主任教授となった。福井は道教研究で知られるが、同時に仏教学・天台学の泰斗でもあった。1949年、新制大学制度に基づく第一・第二文学部が発足し、第一文学部には東洋哲学専修が、第二文学部には哲学専修が設けられ、1951年には新制大学院が発足した。第二文学部の東洋哲学関係科目は、後に東洋文化専修、さらに思想・宗教系専修に再編されたが、2007年に募集を停止して、第一文学部とともに、新たに文化構想学部・文学部に再編された。

現在文学学術院は、大学院文学研究科・文化構想学部・文学部の一研究科・二学部体制をとっている。大学院東洋哲学コース所属教員6名のうち、3名は文学部の同コース所属であるが、3名は文化構想学部多元文化論系に所属している。そのため、文学部ばかりでなく、文化構想学部にも東哲関係の科目が多く配置されている。

津田左右吉は、古典を一字一句ゆるがせにしない厳しい研究態度をとっており、その伝統はインド・中国・日本の三分野からなる東洋哲学コースに色濃く受け継がれている。第二次大戦後の東哲研究室は、津田の直接の弟子である福井康順・原田正己・小林昇らを中心に運営され、やや弱い分野で

あったインド学・仏教学の分野に、宮本正尊・田中於菟弥・平川彰・高崎直道らを、東京大学などから招く体制が続いた。次いで、福井康順の薫陶を受けた楠山春樹・三崎良周・菅原信海・福井文雅らが研究室の中心となり、さらに小林正美・岩田孝・土田健次郎らを輩出した。現在は教員募集も公募制となり、広く門戸を開いている。2024年度の大学院指導教授は、以下に紹介する6名である。

◆大学院東洋哲学コース 専任教員紹介

おおくぼ りょうしゅん 教授 日本仏教教学史・仏教学

漢文文献を中心に、日本・中国の仏教研究を行っています。中でも、平安仏教、具体的には天台宗と真言宗の教学の解明を主な研究テーマにしています。この両宗の仏教は中国仏教を継承し発展させたものですから、隋代・唐代の仏教も研究領域に入ります。そして、平安仏教が日本仏教の根幹とも言うべき影響力を持ったことから、平安以降の展開を研究することも重要です。これらは仏教学の分野としては、天台学と密教学ということになります。この天台学と密教学の両方を尊重したのが日本天台宗ですから、日本天台宗の研究を中心に、中国・日本の仏教を捉え直す研究を展開しています。

《最近の主な研究成果》

『増訂 天台教学と本覚思想』法蔵館、2022

『伝教大師 最澄』法蔵館、2021

『日本仏教の展開—文献より読む史実と思想—』（編著）春秋社、2018

『最澄の思想と天台密教』法蔵館、2015

『天台学探尋』（編著）法蔵館、2014

* 大久保教授の研究室では、本年度新規の大学院生は募集していません。

よしはら ひろと 教授 日本宗教思想史・東アジア文化交流史

摂関期から院政期を中心とする平安朝の宗教・文学・歴史・美術の総合的研究を目指しています。特に現在は、勸学会・大江匡房・八幡信仰・唐宋時代の東アジア仏教交流史などを、主な研究テーマとしています。そのほか、浄土教の日本伝播、寺社縁起と霊場信仰、神道の語義、いわゆる中世神

話と中世神道、近代文学と宗教、絵解きなどのテーマにも、強い関心を持っており、それぞれ研究を続けています。

大学院では、前近代の日本思想の諸問題および浄土教思想の研究指導を担当しています。東洋哲学コースでは、一字一句をゆるがせにしない原典講読が基本となります。大学院では、四六駢儷文を中心とした漢文訓読が必須となりますが、初学者には手ほどきをいたしますので、ともに学んでいきましょう。

《最近の主な研究成果》

『南岳衡山と聖徳太子信仰』（共編著）勉誠出版、2018

『中世禅籍叢刊』第12巻「稀観禅籍集 続」（『心性罪福因縁集』担当）臨川書店、2018

『古鈔本『江都督納言願文集』』（編著）二松学舎大学21世紀COEプログラム、2009

『海を渡る天台文化』（共編著）勉誠出版、2008

『東洋における死の思想』（編著）春秋社、2006

* 吉原教授の研究室では、本年度新規の修士課程学生は募集しますが、博士後期課程学生は募集しません。

わたなべ よしひろ

渡邊 義浩 教授

古典中国学

中国の社会や国家が危機を迎えたとき、自らの古典として振り返るべき「古典中国」が漢帝国で形成された。そこでは、儒教の経義に基づき、封建・大一統・井田・学校・華夷の別といった国家の大綱が定められるだけでなく、他の哲学・宗教はもとより史学・文学・自然科学も、儒教の規制下にあった。そうした「古典中国」は、宋代に「近世中国」として再編され、両者を否定する中で「近代中国」が形成されるが、その影響力は今日の中国にまで続く、という仮説を提示しています。なかなか実証が追いつきませんが、そのうち何とかなるつもりで続けています。

《最近の主な研究成果》

『全譯 三国志』（主編）汲古書院、2019～

『全譯 論語集解』（主編）汲古書院、全二巻、2020

『「古典中国」の形成と王莽』汲古書院、2019

『「古典中国」における小説と儒教』汲古書院、2017

『全譯 後漢書』（主編）汲古書院、全十九巻、2001～2016

かきうち けいこ 垣内 景子 教授 朱子学

中国近世の儒教思想、主に朱子学と、その日本への影響を中心に研究を行っています。特に、朱子学研究の基本文献の訳注作業をライフワークとしています。

朱子学は、長い伝統を有する儒教思想の革新であり、その後の中国思想史の展開を大きく基礎づけたものです。また日本をも含む東アジアの近世・近代思想にも大きな影響を与えました。朱子学を理解することは、中国の伝統思想を理解するだけにとどまらず、東アジアに生きる自分たちのものの考え方や価値観を見つめ直す契機になるはずです。

大学院では、朱子学の基本文献を中心に原典資料を読み解くための力を養うことを第一目標とすると同時に、朱子学を通して東アジアにおける哲学の可能性を探ることを目指します。

《最近の主な研究成果》

『朱子学のおもてなし』ミネルヴァ書房、2021

『「物の理を窮める」と『もののあはれをしる』（『いま、哲学が始まる。』）明治大学出版会、2018

『心学としての朱子学——朱熹の「理」批判と経学』（『「心身/身心」と環境の哲学』）汲古書院、2016

『朱子学入門』ミネルヴァ書房、2015

『「朱子語類」訳注』汲古書院、2010・2012・2014・2017

もり ゆりあ 森 由利亚 教授 中国近世道教・神仙信仰

中国の道教（道家）、神仙思想を研究しています。特に明清期の道教および

仙道の信仰、儀礼、経典、思想等を中心に研究してきました。大学院の授業では、研究指導の他に、北宋・張伯端『悟真篇』（『悟真篇注疏』）と六朝時代の道教経典（現在は靈宝經）を中心に注解・翻訳を行っています。現在、世界の道教研究は急速に進展しています。国際的な研究動向を踏まえながら、広い視野から道教研究を行う研究室を目指しています。

《最近の主な研究成果》

「全真教の継承と正統性の再発見——明末から道光年間初期の龍門派門徒と蔣予蒲の呂祖扶乩信仰を中心に」早稲田大学大学院文学研究科、博士学位請求論文、2020年3月審査

「王常月の三層戒構想と一七世紀江南金陵佛教における戒律改革運動——王常月・漢月法藏・見月讀體」『東洋の思想と宗教』33, 2016

Tracing Back Wang Changyue's Precepts for Novices in the History of Daoism. *Daoism: Religion, History and Society* 8, 2016

「道教の出家傳戒儀についての一考察（金明七眞、賈善翔、周思得を中心に）——王常月「初眞十戒」前史（Ⅱ）」『早稲田大學大學院文學研究科紀要』59(1), 2014

Being Local through Ritual: Quanzhen Appropriation of Zhengyi Liturgy in the Chongkan Daozang Jiyao. In *Quanzhen Daoists in Chinese Society and Culture, 1500-2010*. The Institute of East Asian Studies, University of California, Berkeley, 2013

やまべ のぶよし

山部 能宜 教授 インド仏教思想（唯識学、禅観）

インド仏教における唯識瑜伽行派の思想とその東アジアへの伝播、またインドから中央アジア（シルクロード）に至る地域における仏教の実践（禅観）が主な研究領域です。禅定における身心相関を基本的な問題意識としており、仏教の実践における自己の転換がどのようなメカニズムで起こるのか、またかつての仏教者たちがインドやシルクロードの石窟寺院でどのような実践に取り組んでいたのか等の解明を目指しています。最近では、瑜伽行派におけるアーラヤ識起源論および種子説の展開の研究に取り組んでいます。国際的な研究交流も積極的に推進しており、海外のさまざまな学会等で発表・講演を行なっている他、中央アジアで発見された梵文仏教瑜伽書（通称

Yogalehrbuch)の英訳プロジェクトに参加しています。

大学院の授業では、現在『瑜伽師地論』、『プラサンナパダー』と『維摩経』の原典を読んでいます。読むテキストは年度毎に受講生のニーズも勘案しながら選定したいと思っています。

《最近の主な研究成果》

The Position of Conceptualization in the Context of the Yogācāra *Bīja* Theory. In *Illuminating the Dharma: Buddhist Studies in Honour of Venerable Professor KL Dhammajoti*. Hong Kong: Centre of Buddhist Studies, The University of Hong Kong, 2021.

Concentration and Visualization Techniques in Buddhist Meditation. In *The Oxford Handbook of Meditation*. Oxford: Oxford University Press, 2021

Ālayavijñāna in a Meditative Context. In *Mārga: Paths to Liberation in South Asian Buddhist Traditions*. Austrian Academy of Sciences Press, 2020

A Hypothetical Reconsideration of the “Compilation” of *Cheng weishi lun*. In *From Chang'an to Nālandā: The Life and Legacy of the Chinese Buddhist Monk Xuanzang (602?–664)*. World Scholastic Publishers, 2020

「身心論の観点からみた瑜伽行派の人間観—アーラヤ識説を中心に—」

『日本佛教學會年報』82, 2017

◎教員のより詳しい業績一覧は、<https://www.waseda.jp/flas/faculty/>で参照できます。

2023 年度東洋哲学研究室カリキュラム

【東洋哲学コース】							
東洋哲学特殊問題1	2	春学期	金	3	講師	博士(文学)早大	柳澤 正志 日本語
東洋哲学特殊問題2	2	秋学期	金	3	講師	博士(文学)早大	柳澤 正志 日本語
東洋哲学特殊問題3	2	春学期	月	4	講師	博士(文学)早大	酒井 規史 日本語
東洋哲学特殊問題4	2	秋学期	月	4	講師	博士(文学)早大	酒井 規史 日本語
東洋哲学特殊問題5	2	春学期	木	5	教授	博士(文学)早大	垣内 景子 日本語
東洋哲学特殊問題6	2	秋学期	木	5	教授	博士(文学)早大	垣内 景子 日本語
東洋哲学研究1	2	春学期	金	5	教授	博士(文学)早大	森 由利亜 日本語
東洋哲学研究2	2	秋学期	金	5	教授	博士(文学)早大	森 由利亜 日本語
東洋哲学研究3	2	春学期	火	3	教授	博士(文学)筑波大	渡邊 義浩 日本語
東洋哲学研究4	2	秋学期	火	3	教授	博士(文学)筑波大	渡邊 義浩 日本語
東洋哲学研究5	2	春学期	月	3	教授		吉原 浩人 日本語

科目名	単位	学期	曜日	時限		担当教員	言語
東洋哲学研究6	2	秋学期	月	3	教授	吉原 浩人	日本語
東洋哲学研究7	2	春学期	金	4	教授	博士(文学)早大 大久保 良峻	日本語
東洋哲学研究8	2	秋学期	金	4	教授	博士(文学)早大 大久保 良峻	日本語
東洋哲学演習1-1	2	春学期	火	3	教授	吉原 浩人	日本語
東洋哲学演習1-2	2	秋学期	火	3	教授	吉原 浩人	日本語
東洋哲学演習2-1	2	春学期	火	2	教授	博士(文学)筑波大 渡邊 義浩	日本語
東洋哲学演習2-2	2	秋学期	火	2	教授	博士(文学)筑波大 渡邊 義浩	日本語
東洋哲学演習3-1	2	春学期	火	4	教授	博士(文学)早大 垣内 景子	日本語
東洋哲学演習3-2	2	秋学期	火	4	教授	博士(文学)早大 垣内 景子	日本語
東洋哲学演習4-1	2	春学期	木	4	教授	Ph.D.Yale大 山部 能宜	日本語
東洋哲学演習4-2	2	秋学期	木	4	教授	Ph.D.Yale大 山部 能宜	日本語
東洋哲学演習5-1	2	春学期	火	4	教授	博士(文学)早大 大久保 良峻	日本語
東洋哲学演習5-2	2	秋学期	火	4	教授	博士(文学)早大 大久保 良峻	日本語
東洋哲学演習6-1	2	春学期	木	6	教授	博士(文学)早大 森 由利亜	日本語
東洋哲学演習6-2	2	秋学期	木	6	教授	博士(文学)早大 森 由利亜	日本語
東洋哲学研究指導1-1 M	—	春学期	月	4	教授	吉原 浩人	日本語
東洋哲学研究指導1-2 M	—	秋学期	月	4	教授	吉原 浩人	日本語
東洋哲学研究指導2-1 M	—	春学期	火	4	教授	博士(文学)筑波大 渡邊 義浩	日本語
東洋哲学研究指導2-2 M	—	秋学期	火	4	教授	博士(文学)筑波大 渡邊 義浩	日本語
東洋哲学研究指導3-1 M	—	春学期	火	5	教授	博士(文学)早大 垣内 景子	日本語
東洋哲学研究指導3-2 M	—	秋学期	火	5	教授	博士(文学)早大 垣内 景子	日本語
東洋哲学研究指導4-1 M	—	春学期	木	5	教授	Ph.D.Yale大 山部 能宜	日本語
東洋哲学研究指導4-2 M	—	秋学期	木	5	教授	Ph.D.Yale大 山部 能宜	日本語
東洋哲学研究指導5-1 M	—	春学期	火	5	教授	博士(文学)早大 大久保 良峻	日本語
東洋哲学研究指導5-2 M	—	秋学期	火	5	教授	博士(文学)早大 大久保 良峻	日本語
東洋哲学研究指導6-1 M	—	春学期	金	4	教授	博士(文学)早大 森 由利亜	日本語
東洋哲学研究指導6-2 M	—	秋学期	金	4	教授	博士(文学)早大 森 由利亜	日本語

入試について

推薦入学試験（早稲田大学在學生）	7 月ごろ
一般入学試験（一般外国語：1 カ国語、専門科目）	9 月ごろ
論文特別選抜（早稲田大学在學生）	1 月ごろ

修士論文 題目例

- 「莊子」における隱者像の諸像
- 郭象『莊子注』の研究
- 「正始玄学」研究
- 酷吏伝の研究
- 李贄における聖人観
- 孔門弟子の形象—四科の発生と展開—
- 朱熹の鬼神解釈
- 徂徠学における天の意義について
- 吉田松陰の王道政治について
- 『正法眼蔵』における『妙法蓮華經』
- 道範の成仏思想研究
- 湛然撰『金剛錍論』の研究
- 『守護国界章』の研究
- 天台教学における頓教の思想的展開
- 天台智顗の放生行に関する考察
- 東密の三昧耶戒説
- 伍守陽の煉丹術に見る実践と生活
- 『老子』における「言」と「道」の関係性
- 菅原道真における三世観
- ヴァイシェーシカ学派における sukha と duḥkha の考察
- 『瑜伽師地論』における縁起と業の研究
- 『心性罪福因縁集』の「念仏」観
- 『列女伝』に見られる劉向の政治思想について
- 曹操の思想と諸政策
- 靈寶經典『元始五老赤書玉篇眞文天書經』の研究

博士学位請求論文 題目例

- 先秦思想史上の墨家
- 魏晉期における人物評価と正統論
- 「関帝文献」の研究
- 王陽明資料の新研究—龍場に至るまで—
- 司馬光「心」学考—王安石「性命之理」学との対立から—
- 王安石政治思想研究
- 16世紀後半から19世紀はじめの朝鮮・日本・琉球における＜朱子学＞遷移の諸相
- 「改過」から「慎習」へ——明末清初期における修養論の展開
- 会沢正志斎における「神儒一致」思想
- 安天下一近世経世論の一展開—
- 初期瑜伽行派におけるヨーガ理論の形成：『瑜伽師地論』『声聞地』の研究
- 初期華嚴教学の形成とその展開
- 中世日本密教の形成と展開
- 禅那院珍海已講の浄土教思想
- 近世日蓮宗宗論の研究
- 趙宋天台における円融論の展開
- 全真教の継承と正統性の再発見——明末から道光年間初期の龍門派門徒と蔣予蒲の呂祖扶乩信仰を中心に
- 唐宋における煉丹術の展開—「外丹」の再定義をめぐって—
- 六朝道教上清派再考——陶弘景を中心に
- 日吉社及び山王神道の研究
- 日本古代中世における百鬼夜行譚の形成と変容
- 説一切有部における有漏法と無漏法の定義とその展開
- 隋代天台教学の研究
- 後漢思想社会史研究
- 古代中国における「書」をめぐる思想の形成
-

東洋哲学コース（院）進路例

◆修士課程

民間企業、進学、公務員、学校職員、その他

◆博士後期課程

高校教員、大学教員、企業、その他

東洋哲学コースについて知りたいときは専修室に連絡ください。

39号館4階2419号室 直通電話：03-5286-3701

メール：waseda.totetsu@gmail.com

（助手：武本 宗一郎）

コースウェブサイト：<http://www.waseda.jp/bun-totetsu/labo.html>